

ナプロアース社長通信_第 10 回

今回のテーマは「若い時の失敗は同じ事でなければOK」です。

最近、若い世代の方々を「草食系で撃たれ弱い」「何を考えているのか分からない」「ゆとり世代」などテレビや雑誌で取り上げられています。果たして本当にそうなのでしょうか？確かに時代とともに働き方が変わり、周りの環境も次第に変化していています。その変化に応じてライフスタイルや仕事に対する捉え方も変わってきたと思いますが、私が社会人になりたての頃も「新人類」と言われ、年長者からは理解出来ないと言われていました。

信憑性には欠けますが、発掘された古代エジプトの石版にも「今の若い人は云々…」という言葉あったか無かったか？少し笑ってしまいますね。つまりは、古代から現代まで同じ事が繰り返されている訳です。今の若い世代の社員の方々も、何年か社会人として経験を重ねていくと、新たな世代の方々に対して「今の若い人は仕事が出来ない」とか「理解できない」と言っている可能性が大きいという事です。年齢を積み重ねると経験で仕事が上手になる反面、若い時の事を忘れてしまい、下の世代を批判してしまう傾向があるように思います。かく言う私も、そんなことを言っていたように思います。

ただし今の私は仕事で失敗することや、新たなチャレンジに取り組むことは進んで行かなくてはならないと感じていて、失敗の積み重ねが将来の糧になってくれると信じています。当社でも過去には海外進出して大失敗した経験があります。それでも、海外に会社を作る難しさを知り、外国語が上手に話せなくても実生活を通じてビジネスが成り立つことなど、多くの失敗から次への自信へと変えていきました。この時の経験が現在の「チャレンジする社風」になったと思っています。ただし、同じ失敗を繰り返すことは良くありませんが…

みなさんも「失敗しないように…」と小さくまとまらず、失敗から学び成功を導くという積極的な姿勢を持ち、新たなことにチャレンジしていきましょう。経験からしか学べないことが数多くあり、成長を続けるためには「失敗を反省するのではなく、成功を反省していく」という考え方を持ちましょう。「なぜ成功したのか、その理屈が正しくわからない人が失敗したときに、なぜ間違っていたかを反省できるはずがないからです。反省しているフリだけ。だから、その後もずっと失敗のイメージを持ち続け、いつまでたっても向上しません」と、ある有名なメンタルトレーナーが言っていました。

松下幸之助さんの教えの中に「企業は社会の公器である。したがって、企業は社会とともに発展していくのでなければならない」とあります。これは、会社とは社長の私物ではなく、公から預かっている器だという考え方です。失敗しながらも1つ1つ改善して発展を遂げていく。その原動力が若い世代の方々に、若い世代を鍛えて成長させてあげる役目を年長者が担っている、そう感じ取ってもらえれば幸いです。

今回の話をまとめると、会社を良くするのも悪くするのも、そこで働いている社員一人一人の心の持ちようだと思います。失敗を恐れず、新しい取り組みにチャレンジして自らの成長と会社の発展を同時に成し遂げて欲しいと思います。

最後になりますが、私は若い人が仕事を任せられ頑張っている姿を見ると元気と勇気が湧いてきます。そして若い頃の自分と重なり懐かしさも感じます。みなさんの力で良い会社作り、プライドが持てる会社作りがしたいと思っています。私にとって社員一人一人が誇りであり、大切な仲間です。仕事も人生も大いに楽しみ成長してください。

平成 30 年 3 月吉日 池本 篤